

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470900202		
法人名	医療法人 積善会		
事業所名	グループホーム和の里		
所在地	大分県豊後高田市呉崎755-33		
自己評価作成日	平成23年9月14日	評価結果市町村受理日	平成23年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス評価事業部 大分事業所		
所在地	〒871-0431 大分県中津市耶馬溪町大字大島2640		
訪問調査日	平成23年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心でき、安らぎを持てるケア・住空間の提供を第一に日々努力をしている。職員ひとりひとりが、利用者ひとりひとりに向き合い、地域の一員として穏やかな毎日が過ごせるようにサポートいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設される同法人の老人保健施設やデイサービス事業所との連携が充実しており、周辺には母体となる医療法人や関連法人の介護老人福祉施設等が位置している。また、豊後高田市内2ヶ所目となるグループホームも開設され、新たな交流も始まっており、医療、福祉施設が集積する中にある。今年度は、近隣に畑を借り、入居者、地域ボランティアの方とともに土に触れ、野菜作りを楽しむ機会を持っている。また、職員の要望がかなえられ、ホーム専用車両の購入が実現したことで、入居者の方々の外出の機会も充実しており、心身の活性化や、充足感ある日々の暮らしとなるよう取り組んでいる。管理者、職員は、ゆとりある、豊かな生活環境の中で、認知症支援の根拠となる情報収集や法人としてのスケールメリットをサービスの向上に活かしながら、個性や喜怒哀楽を表現できる場を大切に捉え、安心と尊厳のある暮らしの営みを支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と事業所の関係性を高めた理念を造り上げている。職員が常に見えるところに表示して、理解しあい、ミーティング等で具体的に掘り下げて話し合うようにしている。	「和の里」独自の理念・基本方針は、玄関ホールや職員ロッカー室入り口等に掲示されている。月例ミーティング等にて確認しながら、共有を図り、実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、近隣の人たちと声をかけ、ホームの周りの花壇や、近くに畑を借りて畑作業をしている。ホームのすぐ前に病院が建ち、人通りが多くなった。以前に比べて声かけや立ち寄りも多くなっている。	地域住民であるスタッフの提案により、近隣に畑を借り、地域ボランティアの方の協力も得ながら、入居者の方々とともに畑作業を行っており、今後の活動の展開が楽しみとなる。また、近隣にグループホームが開設されたこともあり、相互に訪問する機会を設け交流を行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の集まりや、認知症の人と家族の会にて認知症の学習会をしている。地域の方からの認知症の相談を受けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの現状を報告して、外部評価の改善点や検討事項等話し合い、意見を参考にし、実践していくようにしている。	複数の家族代表者、民生委員、豊後高田市担当者、地域包括支援センター職員、法人事務長等の参加を得て定期開催されている。活動報告や水害時対策等について意見交換が行われており、議事録には様々な視点からの参加者の発言が、わかりやすく記録されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の方も気軽に来訪していただき、認知症の理解や現場や利用者の課題解決のため、支援と交流を行っている。また、運営推進会議に市役所介護保険課の担当者に参加していただき、助言や意見をいただいている。	定期発行されている通信「和だより」を、行政窓口や地域包括支援センターに届けている。運営推進会議や、法人全体としての連携も含めて、市担当者や包括支援センター職員との顔の見える関係の中で、連携が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で全職員が認識し、拘束のないケアを実践している。	法人として身体拘束防止委員会を設置し、事例を基にしたカンファレンスを重ねる等、職員の意識を高めながら慎重な対応を行っている。家族とも弊害やリスクについて共有認識を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。基本的に日中の施錠は行われていない。	

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれが、高齢者虐待に関する情報を持ち寄り検討を行う機会を設けている。また、職員各々が互いの行動言動に対して意見を出し合い虐待の根絶をチェックしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員と話し合い、研修にも参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明し、当ホームの理念を説明し、特にケアに関する考え方や取組みを詳しく説明している。利用料金や起こりうるリスク、看取り、医療機関との連携、退去時の対応等を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動を察知し、その思いを察する努力をし、介護相談員や病院の相談員、医師、家族に利用者話し合う機会を作っている	遠方に居住する家族も多いが、年1回、敬老会行事の後に家族懇親会を開催している。また、家族アンケートを実施し、内容を全体で検討する等、意見や要望の表出の機会を確保し、運営への反映につなげている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティングや勉強会とき、意見を出しやすい雰囲気作り、コミュニケーションを図るように努めている。・いつでも気軽に職員の意見や要望を聞き出せるように努めている。	毎月、法人代表者が出席する全体会議(あかしあ委員会)が開催されている。今年度は、職員からの要望がかなえられ、ホーム専用車両の購入が実現している。職員全員が常勤採用となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	毎月、代表者(法人理事長)と職員が直接話せる会議を実施しており、その場で状況報告、職員の希望要望、抱えている問題などの相談を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外で開催されている研修会や講演会になるべく多くの職員が受講できるようにしていきたいが、業務の都合で思うようにできていないため、併設の老健の研修会や勉強会に積極的に参加している。		

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・小規模多機能の井戸端会議には積極的に参加し、意見や経験を活かしたケアに励んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面談を行い、本人の状態を把握するように努め、日頃より本人の思いに向き合い、職員全員が受け入れられるように勤めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時に詳しく面談して、家族の想いや悩み等を聞き、事業所としての対応を話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居して、初期は本人の動揺も激しく、情緒不安定になられる場合が多く、本人や家族の思いや状況を確認し、家族や職員と話し合いながら改善に向け対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の悩みや思いや苦しみを分かち合いながら、一緒に過ごす時間を持つように努め、本人の話に傾聴するように努めている。時には、合唱したり、踊ったり、楽しい雰囲気作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の思いや悩みを気軽に話していただく雰囲気作り、本人の持っている能力を引き出し、職員に対して教えていただく工夫をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・時々、我が家の周辺をドライブしたり、家族に協力してもらい、温泉に行ったり、孫の発表会に行ったり、馴染みの美容院や友人の家に遊びに行かれるよう働きかけている。毎週日曜日には、馴染みの集会にも行ける様に支援している。	農業を営んでいた入居者の方も多く、近隣に畑を借り、野菜の生育や収穫の楽しみを共有している。自宅周辺へのドライブを行ったり、馴染みの美容院の利用を、家族の協力も得ながら支援している。	

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の個性を尊重し、気の合う人が気軽に話しが出来、一緒に過ごせる時間を作ったり、役割分担して利用者のできる家事を調整し、利用者同士の関係を円滑にできるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方にも頻繁に会い、声かけをしたり、当ホームでのイベントに招待して継続的な関わりをしている。亡くなられた利用者の家族や、他の施設に移られた利用者の家族も時々遊びに来られている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握できるように、常に声かけや寄り添い、言葉の表情でその思いを把握し、利用者の思いを家族とともに支えあう支援に努めている。	家族の協力も得ながら、充実しているアセスメント様式を活用し、様々な視点から情報収集を行っている。日常の中で、主観的情報や表情の変化、行動等から、一人ひとりの入居者の思いや意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にヒアリングをして、生活歴やその人のライフスタイルを聞いてはいるが、充分でない場合は本人や家族、関係者に聞き取りを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを把握し、出来る事をしていただき、心身の状態は日々記録して、ミーティング等で個別に話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを行い、個別に話し合い、利用者が望むケアや課題について具体的な方法を職員全員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。	定期的に個別のカンファレンスを行い、本人、家族の意向や、日々のかかわりの中から見出されたニーズについて検討を行っている。計画に基づいた日々の実施記録への記載や毎月のカンファレンス、3ヶ月毎の評価を行い、見直しにつなげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要なサービスは柔軟に対応している。		

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要なサービスは柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・利用者が安心して暮らせるように、消防、民生委員、ボランティア、他の施設、病院と連携をとって協力を呼びかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の嘱託医が、週1回往診されるが、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるように家族と連携をとって通院介助を行っている。	入居時に、希望する医療機関を確認しており、家族の協力も得ながら、これまでのかかりつけ医への受診を継続している。歯科についても、随時の往診体制を整備している。協力医療機関や併設老人保健施設、隣接して母体となる専門医療機関もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・併設の老健看護師と常に連携をとっている。当ホームに以前勤めていた看護師が居るため気軽に相談でき、医療機関との連携が密にとれる体制が確保されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、本人の情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞い、病院関係者と話し合い、退院に向けて家族とともに支援するように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人や家族の思いを大切に、医師・職員・家族が連携し、安心して終末期を迎えるように取り組んでいる。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、入居時に説明を行っている。現在、新たに入・退去に関するガイドラインの作成を行っている。併設する老人保健施設や医療機関との連携も図りながら、状況の変化に応じて方針の共有に努めている。	

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健看護師に連絡して、処置や指示を受けている。マニュアルを用意して、緊急時に対応できるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアルを作成し、年に数回利用者とも避難訓練をしている。消防署との連携もっている。	周辺には民家が少ないが、法人内の連携が充実している。年3回、併設施設と合同にて避難訓練を行っており、ホームからの出火を想定したり、実際に夜間帯に緊急連絡網を試行する等、実践的な内容となっている。隣接して法人職員寮があり、災害発生時に備えて、寮長への連絡体制が整備されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の尊厳を傷つけない、やさしく、はっきりとした言葉かけに配慮するよう、ミーティングや日々のかかわりの中で職員同士注意し合っている。	法人として設置されている接遇委員会の中で、各部署が気づいた場面について、相互に評価を行っている。ホームとしても、日常の声かけや対応について、具体的な事例を示しながら気づきを促しており、法人全体で意識を高める取り組みが行われている。「利用者の権利」として、10項目の方針を示し、その尊重に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、出来る限り利用者と寄り添い、言葉かけをして、利用者の思いや表情を引き出す場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・時間に制約されずに、ひとりひとりの体調や気分に合わせて柔軟に対応して。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい生活習慣を家族に聞き、家族の協力を得て、本人の意向で決め、行事や外出時には化粧をして、おしゃれを楽しんでいただくよう努めている。美容院は本人の望むところで行っている。		

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・併設の老健が、献立・調理しているのでバランスはとれているが、利用者と一緒に調理は出来ないが、月2回ほど手作り料理をしておやつは時々利用者とスタッフで作っている。	併設する同法人施設厨房での調理となり、個別の状況に応じた形状の工夫等、細やかな支援が行われている。食事を取りに厨房まで出向いたり、盛り付けや後片付けに参加する方の姿も見られた。和やかな会話の中、ゆっくりとした食事風景があり、食後の余韻も味わっている。月2回の手作り料理の日や、野菜づくり等、「食」のプロセスを楽しむ機会も確保している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・併設の老健の管理栄養士による献立なので、バランスのよい食事がとれている。食事でも職員と同じ物を食べ、楽しく会話しながら、声かけや見守り食介をして、水分摂取を心がけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・就寝前に歯磨きをして、週1回義歯をポリドントにつけている。口の中に溜め込むひとは、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・時間や排泄パターンを把握し、トイレ誘導して、トイレで排泄してもらうようにしている。排尿排便チェックをして、下剤の調整をしている。軽い失禁の利用者には布パンツで対応している。	法人として、排泄委員会が設置されており、布パンツから紙パンツへ移行する場合も、事例検討が行われている。個別の排泄パターンや間隔、表情や姿勢の変化等を見逃さないようにしながら、さりげないトイレ誘導に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食材の工夫や、乳製品を採り入れ、散歩や家事活動で身体を動かすように心がけている。便秘がちの人に対しては、個別の状態に合わせた使用量や回数となっており、むやみに薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・2日に1回の入浴予定日としているが、希望あるひとには随時入浴している。入浴可否の利用者には、無理をせず時間を下げて再度声がけしたり、次の日に声がけを行っている。	基本的な入浴スケジュールはあるが、毎日、入浴準備を行い、希望や状況に柔軟な対応を行っている。窓の外には坪庭も設けられ、ゆとりある浴室環境となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動を促し、昼夜逆転にならないようにしている。その人の睡眠パターンを把握して、就寝時間まで寄り添って、ゆっくり安眠できるように努めている。		

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別に記録し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬による症状の変化がある場合、主治医に連絡し指示を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人の出来る力を最大限に発揮できるように家族とともに雰囲気を作り、歩行困難な利用者には、車イスにて散歩やドライブに出かけるように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・閉じこもりがちのひとに、散歩や外出等するように家族とともに雰囲気を作り、歩行困難な利用者には、車イスにて散歩やドライブに出かけるように努めている。	毎月のように外出行事を実施しており、季節の花見や近隣の「昭和の町」への散策等に出かけている。近隣に畑を借り野菜を育てたり、専用車が確保されたことも含め、環境面でのサポートも充実している。法人としての「積善盆踊り」や近隣施設の「盆フェスト」には、入居者の方々も浴衣を着て参加している	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理能力が困難な人が多いため、支援は行ってないが、1,000円程度の小銭を持たれている利用者もいる。ひとりの利用者は、娘と会う機会が頻繁にあり、お金が無くなれば小遣い程度をもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や古くからの友人に電話したり、家族への手紙に思いを込めて書く練習をしたりして、家族との絆を深める工夫をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日中は、居室や和室で過ごされ、利用者に親しみやすい音楽、御香のたいている香り、花や本、観葉植物が沢山有り、居心地よく過ごしていただくように努めている。	リビング・和室・中庭を中心として、広い廊下や各居室がゆとりを持って配置されている。室内には観葉植物や季節の飾りつけ、絵画等があり、中庭では、薔薇をはじめとして様々な花木が育てられており、日々の暮らしに潤いを与えている。各所にソファが設置され、和室も含めて寛ぎの場所となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下に2ヶ所のベンチを置き、手作りの作品、絵画などがあり、ソファではゆっくりテレビをみたり、音楽を聴いたり、お話をされている。		

大分県 グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は個々に違うが、家族と相談しながら家具などを置いているが、馴染みのものは少なく、殺風景であるが、本人が必要と思われる物や昔の写真を置いている利用者もおられる。	洗面やクローゼットが設置されている各居室には、家族の協力を得ながら、筆筒やテーブルセット等、馴染みの物が持ち込まれ、安心できる環境作りと、プライバシー空間としての配慮が行われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の状態に合わせて、介護ベッドを使用したり、廊下や居室、トイレ、浴室の床など、転倒を防ぐよう安全確保に努めている。		